

平成 21 年 5 月 22 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18606007
 研究課題名（和文） グローバリゼーションの下での中国ムスリム女性のエンパワーメント
 研究課題名（英文） The Empowerment of Muslim women of China in the era of globalization

研究代表者

小林 敦子（KOBAYASHI, Atsuko）
 早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
 研究者番号：90195769

研究成果の概要：

(1)中国の少数民族地域である寧夏回族自治区においては、回族の女性教員の増加に伴い、女兒・女子青年の教育レベルが向上している。(2)日本の NGO の教育支援によって養成された回族女性教員は、結婚・出産後も小中学校教員として働き、地域における女性のエンパワーメントの上で貢献している。(3)民族の特性を生かした女子アラビア語学校の卒業生である回族女子青年は、経済発展の著しい広州や義烏で通訳として活躍している。家庭の経済的困窮等の事情から、普通高校への進学を断念した回族女子青年にとって、アラビア語学校はセーフティネットとなっている。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,300,000	0	1,300,000
2007年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
総計	3,500,000	660,000	4,160,000

研究分野：時限

科研費の分科・細目：社会開発と文化

キーワード：中国、寧夏、ムスリム、女性、エンパワーメント、教育、少数民族

1. 研究開始当初の背景

(1)中国の寧夏回族自治区南部に広がる黄土高原には、多数の回族（イスラーム教徒）が居住しているが、貧困や宗教上の理由のために学校に就学できない多くの女兒や女子青年がいた。

(2)グローバリゼーションが進む中で、80年代から90年代にかけて中国は経済発展を遂げている。こうした社会変動に伴い、黄土高原地域においても回族の女兒や女子青年達の状況に変化が生まれつつある。

(3)しかしながら、依然として問題は根深い

ものがあり、グローバル化に伴う新たな課題も生まれている。

2. 研究の目的

グローバル化の下での中国イスラム女性のエンパワーメントを、公教育、宗教教育の2方向から総合的に検討する。

(1) 公教育の検討

回族の女子青年が師範学校での学習を通じて、いかに教師となり、農村の小学校教員として、女兒の教育水準の向上や女性の社会的地位の上昇にどのような役割を果たしているのかを明らかにする。また、現在、直面している課題を考察する。

具体的には、寧夏において回族に対して行われた日本の NGO による教育支援プロジェクト(1993年~2005年、宋慶齡日本基金会、回族女性教員養成プログラムを含む)を主な対象とし、あわせて NGO による教育支援プロジェクトのあり方も検討する。

(2) 宗教教育の検討

モスクに付設された女子アラビア語学校の実態を明らかにする。

また卒業生の進路を調査し、アラビア語教育が回族女子青年のエンパワーメントにどのような役割を果たしているのか考察する。

3. 研究の方法

(1) 回族女兒教育実態調査、回族女性教員調査、及び女子イスラム学校調査(第1回目; 2006年8月31日~9月7日、寧夏。第2回目; 2007年8月29日~9月7日、寧夏、甘肅)。

インタビュー、参与観察を中心とする質的調査、アンケートによる量的調査を実施。合わせて文献資料の収集。

(2) マレーシア・イスラム女性調査(2007年8月22日~26日)。インタビュー及び文献収集。

(3) 義烏(2007年12月22日~29日)及び広州(2008年12月24日~30日)における調査。寧夏や河南からの回族出稼ぎ者へのインタビューを実施。

(4) 河南省開封における女性モスク及び付設女子アラビア語学校の調査(2009年3月10日~14日)。インタビュー及び文献収集。

4. 研究成果

本研究は1995年からの回族女子師範生や回族女子青年の調査の上に構想された研究である。中国が大きく社会変動を遂げる中で少数民族地域における女子青年の成長過程を追った追跡調査であり、国内外からも注目されている。

(1) 公教育ルート(公立学校)

寧夏で実施した回族女性教員調査(サンプル42人)によれば、回族の女性教員は、約半数が農民家庭出身で、兄弟・姉妹の合計は約5人である。父親の学歴は非識字もしくは小学校レベルが多く、母親の学歴は約8割が非識字者である。経済的に困難な家庭出身者も多い。

しかし師範学校卒業後は教員として安定した給与を獲得するとともに、教員になることで都市戸籍を獲得しており(以前は農村戸籍)、社会的地位が上昇している。

回族女性教師は、農村部における女兒・女子青年の教育レベルを向上させている。

回族女兒が就学できなかった要因として、

貧困や学校不足の他に、宗教上の理由から男女の別が厳しいにも拘わらず女性教員が少なかったことがある。しかし回族の女性教員の増加に伴い、回族女兒の就学率が向上していることが個別のケーススタディによっても、明らかにされている。

現金収入を得ている女性教師は、女兒にとってロールモデルと言え、女兒の就学を促進する直接の要因となっているのである。

さらに回族女性教員は、農村地域における女性の地位向上に指導者として積極的な役割を果たしており、女性のエンパワーメントに貢献している。

日本の NGO の教育支援によって養成された回族女性教員は、結婚・出産後も小学教員として働いており、地域で活躍している。

教科書代が支払えない児童のために教科書代金を支出してきた他、児童の文具購入や生活面での支援も行っている。自身が奨学金を受けたことから使命感も強い。

女性教員の中には、僻地校に派遣されているため、夫や子どもと別れて単身赴任で勤務する例も少なく無い。また、グローバリゼーションに伴う農村における消費経済の浸透に伴い、生活苦を訴える女性教員が少なからずいること、生活条件の良い都市部の小学校に転勤できず農村部に長く留まっている女性教師の場合、閉塞感から不満が生じていることが明らかとなった。

さらに回族女性教員は教師になることで帽子（ヴェールの代用）を被らなくなっている。こうした世俗化やイスラーム文化からの乖離は今後の検討課題である。

(2) 宗教教育ルート（民間教育機関）

女子アラビア語学校は回族女子青年の重

要な教育機関となっている。

女子アラビア語学校はモスクに付設された民間の教育機関であり、クルアーンやアラビア語が教授される。寧夏や甘肅の女子アラビア語学校での学生は、中学校卒業の回族女子青年を中心としている。

中国は現在、大学生の就職が困難になりつつあり、少数民族学生や特に少数民族女子学生の就職は問題である。

民族の特性を生かしたアラビア語学校卒業生は、海外貿易の盛んな広州や義烏で通訳として働き、高額な給与（平均して 2000 元～3000 元）を得ている。家庭の経済的困窮、あるいは普通高校への不合格等の事情から、普通高校への進学を断念した回族女子青年にとって、アラビア語学校はセイフティネットとなり、エンパワーメントの貴重な機会を提供している。

広州で通訳として活躍しているアラビア語学校卒業生の回族の中には、日本の NGO の支援によって建設された寧夏の小中学校の卒業生がいた。学校教育が宗教教育の基礎として重要であることとともに、日本の教育支援が少数民族の教育に重要な役割を果たしていることが明らかになった。

河南などの中原地帯においては、女性専用の女性モスクが設立されており、こうした女性モスク、及び付設の女子アラビア語学校が回族女性のネットワーク形成の上で重要であることが確認された。

女性モスクは女性の集会施設、学習、仲間作りの場となっている。また女子アラビア語学校では、女子青年及び成人女性がクルアーンを学んでいる。ただし、中原地域の場合、寧夏・甘肅などの西北地域に比べると、相対的に高齢女性が多く、生涯学習の場としての

役割を主に担っている。

(3) 国際会議の開催

本研究は研究活動の一環として、平成18年度に「国際シンポジウム グローバリゼーションの下での少数民族女性のエンパワーメント」を開催している（早稲田大学国際会議場、2006年11月5日～6日、早稲田大学国際会議等開催助成及び、国際交流基金知的交流会議助成からの補助金による開催、招聘外国人パネリスト8名）。その成果は、すでに『国際シンポジウム グローバリゼーションの下での少数民族女性のエンパワーメント 報告書』として出版されている。

また、最終年度である平成20年度には、「国際フォーラム・社会的マイノリティのエンパワーメント 貧困と教育をめぐって」（早稲田大学国際会議場、2008年10月24日、招聘外国人パネリスト2名）を開催しており、研究成果の発表と国際的な回族研究ネットワークの組織化を行うとともに、研究成果報告書『グローバル化の下での中国ムスリム女性のエンパワーメント』を発売している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

新保敦子「論回族女性教育和活力化 以伊斯蘭女子学校為例」『学術研究』、57、1-6頁、査読無、2009

新保敦子「中国ムスリム女子青年とキャリア形成 イスラーム女学をめぐって」『ワセダ アジアレビュー』、4、12-14頁、査読無、2008

新保敦子「満洲国におけるモンゴル人女子青年教育 興安女子国民高等学校を中心に」『東アジア研究』、50、3-17頁、査読無、2008

松本ますみ「日本語で歌い話す<他者> 李香蘭映画にみる<東亜>のジェンダーポリティクス」『敬和学園大学人文社会科学研究所年報』、6、85-111頁、査読無、2008

新保敦子「グローバル化の下での中国ムスリム女性指導者」『学術研究』、55、1-10頁、査読無、2007

松本ますみ「キリスト教宣教運動と中国イスラームの近代への模索」『中国21』、28、127-144頁、査読無、2007

新保敦子「中国の歴史教育 1980年代以降に焦点をあてて」『日本の科学者』、41、36-41頁、査読無、2006

新保敦子「中国のカリキュラム改革」『早稲田大学教育総合研究所所報』、3、67-68頁、査読無、2006

〔学会発表〕（計14件）

新保敦子「中国西部貧困地区初中昇高中昇学阻碍要因及対策研究」中国貧困研究会『中国西部地区農村的貧困問題研討会』（於：東京・陽光ホテル）、2009年3月1日

Masumi Matsumoto “Some Aspects of the Development of China’s Female Madrasa” Plenary Session A2, ISA-AEI Int’l Conference, New Horizons in Islamic Area Studies, November 24, 2008,

松本ますみ「もう一つの女性解放と開発にむけての選択？ 中国の女性イスラーム学校」、NIHUプログラム・現代中国拠点研究「貧困と教育」研究会『国際フォーラム 社会的マイノリティのエンパワーメント 貧困と

教育をめぐる』(於:早稲田大学国際会議場)、2008年10月24日

松本真澄「雲南女子学校の宗教教育と有関女性的 発展 的討論」中日国際学術研究会『中国辺境民族的遷徙、交流和文化動態』(於:中国雲南大学)、2008年9月2日

Masumi Matsumoto “The Debates on Islamic Feminism and Empowerment: Gender in Contemporary Islam in China”, April, 4, 2008, Session 160: Islam in China, Annual Meeting of Association for Asian Studies, at Hyatt Regency Atlanta, U.S.
新保敦子「回族女性教育和活力化」雲南省社会科学院『中国農村貧困発生机制及其对策国際研討会』(於:雲南昆明・花園賓館)、2008年2月28日

松本ますみ「日本語で話し歌う 他者 李香蘭映画にみる 東亜 のジェンダーポリテイクス」『第57回日本西洋史学会大会 小シンポジウム「第二次世界大戦下、表象に見るヨーロッパと日本 ジェンダー・民族の視点から」』(於:新潟朱鷺メッセ)、2007年6月17日

松本ますみ「<近代の衝撃>と雲南ムスリム知識人」人間文化研究機構『国際シンポジウム「ユーラシアと日本:境界の形成と認識」』(於:国立歴史民俗学博物館)、2007年3月4日

松本ますみ「公教育、民間教育における中国ムスリム女性—イスラーム復興・グローバリズムの中のジェンダー」『ジェンダー史学会第三回年次大会シンポジウム「文化・権力・ジェンダー」』(於:津田ホール)、2006年11月25日

新保敦子「寧夏プロジェクトの検証 自発的

市民活動の可能性」『国際シンポジウム・グローバル化の下での少数民族女性のエンパワーメント』(於:早稲田大学国際会議場)、2006年11月5日

松本ますみ「中国公教育とイスラーム宗教教育のジェンダー平等観 回族/ムスリム女性であることと「軍事化」との関わりから考える」『国際シンポジウム:グローバル化の下での少数民族女性のエンパワーメント』(於:早稲田大学国際会議場)、2006年11月5日

新保敦子「關於回族女性教育指導者の考察」寧夏社会科学院『第二回回族学国際研討会』(於:中国寧夏沙湖賓館)、2006年9月5日
松本真澄「公弁教育和非公弁教育中の性別と女性的発展」寧夏社会科学院『第二次回族学国際学術研討会』(於:中国寧夏沙湖賓館)、2006年9月5日

Masumi Matsumoto, “Enhancing Ethnic Identity by Accepting Knowledge from the Outer World China’s Islamic Awakening in the Era of Imperialism” Nanjing University- Harvard Yenching Forum for Dialogue between Chinese and Islamic Civilizations, at Yunnan University, Kunming, China, June 18, 2006

[図書](計3件)

松本ますみ「歴史認識 語られたものと、黙殺されたもの」『東アジア 共生の条件』世織書房、91-113頁、2006

松本真澄「現代中国伊斯蘭与基督教的和睦共処」楊懷中編『鄭和与文明對話』寧夏人民出版社、249-254頁、2006

Masumi Matsumoto “Rationalizing

Patriotism among Muslim Chinese ”,
Dudoignon, Hisao, Komatsu, Yasushi
Kosugi eds., *Intellectuals in the Modern
Islamic World Century: Transformation,
Transmission, Communication*, London:
Routledge, pp.117-142, 2006

[その他](計10件)

新保敦子編著『グローバリゼーションの下での中国ムスリム女性のエンパワーメント』日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書、164頁、2009

新保敦子「日本軍占領下のモンゴル人女子青年教育 中等教育を中心として」『植民地期東アジアの近代化と教育の展開 1930年代～1950年代』日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書、27-40頁、2009

新保敦子編著『国際フォーラム 社会的マイノリティのエンパワーメント 貧困と教育をめぐって 報告書』、78頁、2008年

松本ますみ「<近代の衝撃>と雲南ムスリム知識人」『NIHUプログラム 日本とユーラシアに関する総合的研究 ユーラシアと日本:境界の形成と認識 報告書』、90-100頁、2008

松本ますみ『近現代中国における欧米キリスト教宣教師の対ムスリム布教に関する歴史社会学的研究』、日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C) 報告書、181頁、2008

新保敦子「回族女性教育に関する一考察」『中国ムスリムの宗教的・商業的ネットワークとイスラーム復興に関する学際的共同研究』日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書、15-21頁、2008

松本ますみ「国境を越えたムスリム女性ネッ

トワークとイスラーム・フェミニズムの誕生」『中国ムスリムの宗教的・商業的ネットワークとイスラーム復興に関する学際的共同研究』日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B) 研究成果報告書、172-184頁、2008

新保敦子編著『グローバリゼーションの下での少数民族女性のエンパワーメント』(国際シンポジウム報告書)、チヨダクレス、389頁、2006

新保敦子「關於回族女性教育指導者の考察」『第二次回族学国際学術研究会論文編』、386-391頁、2006

松本真澄「公弁教育和非公弁教育中の性別と女性的発展」『第二回回族学国際研究会論文編』、392-400頁、2006

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小林(新保) 敦子
(KOBAYASHI SHIMBO ATSUKO)
早稲田大学教育・総合科学学術院・教授
研究者番号: 90195769

(2) 研究分担者

松本 ますみ (MATSUMOTO MASUMI)
敬和学園大学・人文学部・教授
研究者番号: 30308564

(3) 海外の研究協力者

武宇林 北方民族大学助教授
蔡国英 寧夏教育厅長、中国教育学会副会長
馬 平 寧夏社会科学院研究員
王建新 中山大学助教授